

「ぱぶさんの何でも見てある記」 上・下

綿森 宣行 著

上巻 B5判 228頁

下巻 B5判 236頁

各本体 1200円

(これらの本は [Amazon](https://www.amazon.co.jp) から送料無料で購入、お知り合いへの贈答もできます)

ぱぶさんの “何でも見てある記” 上巻 綿森 宣行



ヨルダン(中東アラブ)での1年は何でも日本と違って
いて、旧約聖書の世界が目の前にあった。ペトラや死
海、赤茶けた砂漠(ワディ・ラム)、周りは中東の火薬
庫と言った地理的背景、あのサラディンの守ったお城
(カラク)と全てに強烈な印象がある。ハワイは懐かし
の地として思い入れも深い! 大好きなヨーロッパの街
ではルネッサンス芸術やロンドンのミュージカルを愉
しみ、美術館や博物館では教科書でしか見なかった
感動の絵や彫刻に会い、ローマではローマの休日を
家族で再現訪問し、シーザーの立った同じ論壇も見
た。国内の山形はゴルフ、温泉、奥の細道ゆかりの
地、更にはおいしいソバがある。ふるさと周防大島も
皆さんへの紹介とした。

ぱぶさんの “何でも見てある記” 下巻 綿森 宣行



ヨルダン・アカバでのダイビング、アンマンからの帰りに
寄ったドバイ、インド(ニューデリー、タージ・マハ
ル)、シンガポールの点描。中国西安(兵馬俑、華清
池、大雁塔、青龍寺等)、墨絵の里桂林、経済躍進中
の上海&その近郊。ビーナス上陸の浜(キプロス)、
ギリシャ、古代オリンピックの里、地中海・エーゲ海の
クルーズ、サントリーニ島。国内では今も行く度に何ら
かの新しいアトラクションを提示する博多。秋芳洞・秋
吉台、客人を案内しての広島(宮島、平和公園)、山
口(錦帯橋)。九州新幹線で訪問した鹿児島(指宿、
知覧を含む)。5000年の歴史がみているエジプト(ピ
ラミッド、スフィンクス、王家の谷、ナイル川 etc.)。カナ
ディアン・ロッキーとシアトル再訪。ハワイ総集編!

ぱぶさんの “何でも見てある記”

上巻

綿森 宣行



まえがき

ぱぶさん(4travel旅行記ブログでのハンドル・ネーム)は2002年60歳でサラリーマン人生をリタイアした。20代の初めにアメリカ政府の全額奨学生としてハワイ大学で修士を取らせて頂いてより、リタイア後には何らかのボランティア活動をして世の中へのお返しをしたいと考えていた。一つはアジア文化会館(文京区本駒込)での外国人・留学生対象の「日本語を話す会」で、これは講習会に参加して立ち上げより参加。もう一つは大原社会教育会館(板橋区大原町)の主催するパソコン教室に参加して、「かもめ組」の活動としてペイント、ワード、インターネット・メール等の初歩のコースを区民対象に行うもので、それぞれ10年近く活動している。そのような中で、2005年秋、JICA のシニア・ボランティアとしてヨルダンに 1 年間赴任の機会に恵まれた。

インターネットの趣味の掲示板に「ヨーロッパが大好きな人、集まれ！」(Yahoo!)と言うのがある。会社勤めの頃、海外の企業、なかんずく、ヨーロッパ(イタリア、デンマーク)の会社と技術移転関連でお付き合いが深く家族やぱぶさん自身のお遊び旅行等も含め、20回程も出掛け、彼の地の素晴らしい風景、博物館、美術館等の訪問も含め、大のヨーロッパファンとなっていた。それで、この「ヨーロッパが大好きな人、集まれ！」(ヨロトピ)に参加して、また、折々の off 会にも参加して大いにヨーロッパの蘊蓄に花を咲かせていた。

アメリカの頃よりの「何でも見てやろう」の精神、インターネットの活用(外とのコミュニケーション手段)とも合わせ、ヨルダン滞在中の2006年4月にヨロトピ仲間から勧められた 4travel (無料の旅行記ブログ) に積極的に旅行記を書きアップを始めた。シリア旅行記が初めてであるが、旧約聖書のストーリーにも出てくるモーゼ終焉の地、死海、ロトの洞窟、ヘロデ大王のサロメの舞台等々、訪問して感動する遺跡に事欠かない。ぱぶさんの 4travel 旅行記 (<http://4travel.jp/traveler/pabusan/profile/>) にはヨルダン滞在中のローマ遺跡やかの有名なペトラ、ワディ・ラム他、春のお花見散策のストーリー等をあげた。更に、以前からの旅行記録も含め 2013年1月現在で 105編のストーリーをあげている。6年強の間にこのぱぶさんサイトには延べで16万人強もの人が訪問してくださっている。

2011年に入って3月11日の東日本大震災・原発事故等が起こり、世の中、何が起こるか分からない騒然とした時代に入った感がある。この様な時、ぱぶさんに2つの冊子が届いた。一つは、「日本語を話す会」(火曜会)の奥山義夫さんの「マリアさんこんにちは」とタイトルされている、留学生との活動交流記で、ぱぶさんにもこの様な体験記は書けるかもと思った。二つ目のもの

はシニアボランティア経験を生かす会発行の「シニアの挑戦！国際協力の現場を語る」と言う冊子でぱぶさんのヨルダン体験記もこれに2頁所収されている。

ここまで書いてくると、ぱぶさんの次のステップが見えてくると思う。そうだ、ぱぶさんには 4travel の旅行記がある程度まとまった形で原稿としてある。これを自費出版しよう！しかし、一般的な出版イメージではプロの編集者の手を借り、デザイン等も含め費用が100万、200万と言った話が聞こえてきた。この様な高額では退職金でも貰ったすぐ後でもない限り自費出版には一寸躊躇するだろう。パソコン教室の活動で色々タレントを有するスタッフ仲間の皆さんも身近にいる。この様な仲間の協力も得られれば、案外自分で原稿を仕上げ、印刷・出版社等へ仕上げた原稿を持ち込むことで安く自費出版が出来るのでは？この様なもくろみのもと、まず「隗より始めよ」で、早速案を練ってみた。

ぱぶさんの原稿は105ストーリーあり、1編3～4ページものとするグラビア・ページ等も含め、1冊にすると400ページを超えるものとなる！それで、もくろみとしては B5判 上・下2冊とすることとした。4travel では画像はプライバシーもあって、あまり明確には顔を晒さないよう、ぼやけていたり、更にはコラージュとして一つの画面に沢山詰めたものが多い。また、一連のストーリーを一画面に入れてイメージとして内容を伝えることに注力したものである。表現には一応注意しているので、4travel に挙げたものでクレームを受けたものは無い。今回も皆さんにご寛恕を願うものである。なお、多少なりともこのあたりを補い、また 4travel で書き込まれてないものも含め、グラビア・ページ20ページを加え、簡単な画像説明でぱぶさんの思いを伝えようとしたものである。

「ぱぶさんの何でも見てある記」の上巻には 1 年間滞在したヨルダンでの各地巡り、シリア、ヨーロッパ五都見聞録、家族で夏休み(ヨーロッパ)、ハワイの同窓会2件とタイの同級生との再会旅行がある。日本国内では2年間単身赴任した山形での各地巡り、故郷周防大島、富士登山等をカバーしたものである。下巻には中国、インド、エジプト、キプロス・ギリシャ、シアトル・カナダ、アカバでのダイビング他、国内は名古屋、広島等である。

大して代わり映えもしない旅行記であるが、好奇心一杯に、また伝えたいこの場所、あのエピソード等、ぱぶさんの思いの詰まったミー・ハーな読み物である。気楽に楽しんでいただければ幸いである。

ヨルダンの思い出アルバム



1. シニア・ボランティアでアンマンに着いた同僚 3 夫妻とホテル近くのアラブ・レストランで一緒に食事した。ここからぱぶさんのヨルダン滞在の 1 年が始まった。

2. 当初、アリ先生から1回 2時間 x 7回ほどのアラビア語授業を受ける。テキストは幼稚園か小学1年生向けの様な単語とアルファベット絵入りもの。文字も発音も難しく、易しい挨拶程度でまったくアラビア語の進歩なし！



3. それでもコースを終えて、先生のご案内でダウンタウンのアラブ・レストランでこのような打ち上げパーティーを和気藹藹に持つ。アリ先生は日本にも何年かいたことがあり、日本人の気質も良く知っておられる。旅行社も経営されているなかなかビジネスマン。

時期：2005年～2006年

ヨルダンの思い出アルバム

4. アンマン市内のアンマン城にある国立考古学博物館。そこにある「死海の書」の入っていた壺。



5. ローマ帝国のマイル・ストーンがここまで届いている！（裏にはちゃんと番号入り）



6. (上) モーゼ終焉の地と言われるネボ山山頂(800m)にあるモニュメント。この後ろには死海(-400m)があり、神の約束の地が見える！

7. (下左) ネボ山山頂から周りを見ると・・・

8. (下右) ヨルダンの80%はこの様な赤茶けた土漠(ここで貝の化石を見つける)



時期：2005年～2006年

ぱぶさんの “何でも見てある記”

下巻

綿森 宣行



まえがき

ばぶさん(4travel旅行記ブログでのハンドル・ネーム)は2013年4月にこの本の上巻を発行して、ちょっと一休みの後、下巻の作成に取り掛かった。ブログに粗原稿はあり、これをダウンロードして個々の旅行記に再編集する作業は、既に一度経験しているので、楽観していた。しかし、実際に取り掛かると、パソコンは壊れるは(!?), インターネットは不安定で、中々編集作業が進まない。パソコン一つとっても、使っていたノート・パソコンのハードディスクを交換すると従来入っていたソフトも全て無くなり、更にネット、セキュリティー他、諸々の再設定からプリンター(無線)設定まで、何から何までやり直しとなった!

「ばぶさんの何でも見てある記」は上・下巻で区切りをつけるつもりなので、昨年10月頃からの広島(宮島・平和公園)、岩国(錦帯橋)、博多での同窓会に合わせ訪問した鹿児島(指宿や知覧等)もブログに揚げ、下巻に取り込みたい。更に今年の春の河津桜のリポートも入れたいと希望も膨らむ。この作業にデジカメ画像整理やストーリーの作成も必要でこの様な事にも時間をとられた。結局、ブログに揚がっている108件のストーリーは一部組み替えたりして上巻の52件と下巻の54件で何とかバランス良くまとめることが出来た。

本の出版には通常大手の出版社から出すと、ほとんど苦労無く出版可能であるが、リタイアした普通人がこの様なルートから本を出そうとしても莫大な費用が掛かるか、原稿があっても中々取り上げてはもらえない。また、本が出来ても本屋さんと言う流通に流すことは不可能である。これらが相まって、この業界の古い体質となっており、いわば既得権益で守られているのである。下巻から取り組もうかと漠然と思っていたばぶさんであるが、やはり最初から正規の本として出版したかったので、日本図書コード管理センターに登録してISBN(International Standard Book Number)と言う番号を貰った。この番号とバー・コードを本に印刷して初めて本として流通O. K. となる。

しかし、ばぶさんの本では本屋さんは扱ってくれないので、色々探した結果、Amazon.comからネット販売しようとこちらにアプローチした。この手続きも全く時間と労力を要すもので、かつ、登録され、売れるようになるまで、何度もメールやり取り(電話相談は受け付けない)で疲労困憊、ほとんど喧嘩状態のやり取りをほぼ1ヶ月くらい続けてやっと落ち着きを見た。しかし、本のサイトに登録されても、現実にはさっぱり売れない!(*^*) 1冊売れると1冊納入と言ったヒトを小馬鹿にしたようなやり方がAmazon.comである。まあ、上巻はテスト・ケースとして下巻ではちょっとした戦術も練って、販売も多少は進む様、対策を考えようと思っている。

「ばぶさんの何でも見てある記」(上巻)を出版し、170人程の親戚、友人、知人等に配ったことでこの本への反響も得られた。概ね好意的に受け取ってくださったが、なかなか他の人に勧め下さったり、Amazon.com を通じて購入して下さる人はいない。所詮、ばぶさんの自己満足であり、旅行した記録を本としてまとめたと言う事実を残せたことである。上・下巻揃えば、国会図書館やばぶさんが頻繁に利用する板橋中央図書館にも寄贈(納本)したいと思っている。Amazon.com や国会図書館は本をデータとして登録するので、あるいは思いもしないような人が将来データ検索や何かの縁で利用・活用、はたまた、ばぶさんの主張や書かれている内容に共鳴してくれるかも知れない。

本を出版、配ったことで、色々な人からコンタクトが返って来て、しばらく止まっていた人とのコミュニケーションも持たれたことは、ばぶさんの喜びである。出版祝いだとお昼をごちそうしてくれた人、パソコン仲間のボランティア・グループではささやかな(ばぶさんにとっては過大な)出版記念パーティーを開いてくれ、ばぶさんを元気づけて下さった。更に多くの方より何らかの贈り物を寄せていただいた。本を買うより高くついたことと恐縮している。

「ばぶさんの何でも見てある記」(下巻)はヨルダン・アカバでの若い仲間との楽しいダイビング・日本を離れた異国でのディナーや「わいがや」の記録、ヨルダンでの同僚 O 夫妻らとのエジプト、キプロス・ギリシャ旅行(シリアを含め、これらの地は現在政情不安定で素晴らしい人達や思い出の場所が無事なのかと心配される)、アンマンからの帰りに寄ったドバイ・インド・シンガポールでの備忘録を含む。更に、中国西安、桂林、上海はばぶさんの何でも見てやろう的観察記録である。国内旅行記は、ばぶさんの大好きな博多!、田舎や名古屋の折々の記録であり、ミ－ハーなばぶさんの訪問コメント集でもある。最後に家族でのカナディアン・ロッキーやシアトルの旅は同級生との再会、恩師を訪ね、懐かしき ふ・る・さ・と 再訪である。ハワイも親戚の皆さん、友人らとの交友記録であり、ばぶさんの“アローハ”の気持ちである。

ばぶさんはサラリーマン時代、技術移転(ライセンス)やファイン製品の開発・売り込みでヨーロッパ、東南アジアの国々に40回超も出張している。しかし「ばぶさんの何でも見てある記」は自由人として、ばぶさんが行ってみたい、寄ってみたいといったところを好奇心や遊び心で訪問した、デジカメ時代の過去20年程の記録である。画像も沢山あるので、読者の方には、行かれた場所はちょっと懐かしの再確認、これから行きたい場所には軽いガイドブックとして気楽に楽しんでいただければ幸いである。

楽しいアカバでのダイビング & アンマンからの帰国



1. ヨルダンの最南端にあるアカバ港は特区であり、リゾート地でありダイビングのサイトでもある。遊覧船からみるこの大きな旗はヨルダン国旗ではなく、アラブ連邦旗と言われる。向いにはイスラエルのエイラートの街が見え、画像の右手にはサウジがある。

2. アカバは水温も年中20℃を下らない温暖な気候でサウジ寄りのダイビング・サイトは透明度も良く、カルフルな魚も群れている。ロイヤルとレッド・シーの2つのダイブ・サイトで若い仲間たちと7回ばかり潜った。



3. 海から上がってちょっとリラックス



4. 見事なカモの潜りをみせる若い仲間



時期：2006年5月～10月

楽しいアカバでのダイビング & アンマンからの帰国



5. 海に入る前、インストラクターと



6. ビーチに面したホテルの喫茶で一休み



7. (左)、8. (右) アカバではいつも若者たちと一緒に、夜は食事会やホテルの誰かの部屋に集まり、ワイガヤの飲み会で大いにアカバの雰囲気を楽しんだ！

9. (右) 7時間の乗り継ぎにドバイのブルジ・アル・アラブ ホテルと近くのビーチを散策

10. (下) ドバイの高速を走る



時期：2006年5月～10月